□□□□

□□□

□□□

北海道安平町地震被害支援食事会
場所　ブラジル北海道文化福祉協会
日時　2018年10月12日　11:00から15:30

北海道協会の皆さん（提供・ブラジル北海道協会）

7月の西日本豪雨で死者数１０８人に上るなど甚大な被害を受けた広島県を支援するために、広島県人会は7月の県連日本祭りで募金活動を開始し、すぐに寄付用特別口座を開設した。およそ2カ月間で、日本円に換算して約１５０万円が寄せられた。

同じく西日本豪雨で大きな被害を受けた母県を支援するために、岡山県人会（角南美佐子会長）も義援金特別口座を開設し、「支援フェイジョアーダ会」を８月１９日に同会館で開催した。急な呼びかけたにも関わらず、若者を中心に２００人以上の来場者が集まり、収益の全額を母県に寄付した。

9月3日に起きた北海道胆振東部地震で甚大な被害を受けた安平町。そこと縁の深いブラジル北海道協会（大沼宣信会長）は、「北海道安平町震災支援イベント」を１０月１２日に開催した。予想を上回る約３００人が来場し、焼きいかやニシン等の販売収益と募金を合わせて1万レアル以上が集まった。同会が募金活動のため開設した銀行口座にも続々と募金が寄せられた。

第８位＝目白押しだった創立行事

日本移民１１０周年と共に、多くの団体が創立記念行事を行った。その数は本紙で取り上げたものだけでも４１に上る。

県人会では１７団体が節目の年を迎え、内１１団体では日本から慶祝団を迎えるなどして盛大に祝典を催した。地方日系人会では聖南西連合（ＵＣＥＳ）やドラセーナ、イビウナ文協などが式典を行い、日系企業では、ＮＥＣが当地進出５０周年を記念してイベントを行った。外務省の広報拠点『ジャパン・ハウス』は、５月の開館１周年時点で来場者数が７７万人を、８月末には１００万人を超え注目を集めた。

ＡＣＡＬ東洋祭り、カンポスさくら祭りが共に開催５０回を迎え、池坊ブラジル支部等の文化団体や日伯友好病院等の福祉団体、松柏大志万学院などの教育団体も節目を祝い、新たな一歩を踏み出した。

第９位＝めでたい受勲、表彰者多数

優れた功績を残した人々が、今年も多く顕彰された。

日本政府による春・秋の叙勲ではブラジル人、日系人ら合わせて３０人が選ばれ、外務大臣表彰では５０の個人・団体が、サンパウロ市議会からは１０人がその功績を認められ表彰を受けた。

民間でも各団体が高齢者、功労者表彰を盛んに行った。

中でも移民１１０周年の今年は、同祭典委員会が、日系社会の発展ならびに日伯両国の関係強化に顕著な貢献をした１１０の個人・団体に

□□□